

Cプロジェクト計画 2006

平成18年9月10日

大和川サミット

大和川の再生をめざして…

大和川フォーラム

Cプロジェクト計画 2006

大和川流域では、平成17年3月、堺の地において採択された「大和川水環境サミット」の取り組みに対して、流域住民、市町村、府県、国が一致協力して取り組みを推進し、平成22年の平城遷都1300年を目指して大和川の再生を加速させます。

今後、これらの取り組みについては、毎年成果のとりまとめと計画の見直しを行い、流域の力を集中してこれらの取り組みを重点的に実施するため「大和川再生推進月間」「大和川の日」を制定し、Cプロジェクト計画の年次報告と見直し、各種の普及啓発事業を実施していきます。

平成18年9月10日

大和川サミット

目 次

はじめに

- 1．Cプロジェクト計画策定の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2．これまでの取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 3．大和川の再生を加速するプロジェクト・・・・・・・・・・3
- 4．大和川フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

[資料]

Cプロジェクト計画 2006（水環境編）

[参考]

大和川水環境サミット宣言文（平成 17 年 3 月 5 日、大和川水環境サミット）

本計画の位置付けと構成について

本計画は、平成 18 年 9 月 10 日「なら 100 年会館」において、国土交通省・奈良県・大阪府・大和川水環境協議会・大和川環境整備連絡協議会・大和川流域総合治水対策協議会・大和川沿川整備協議会で開催した大和川フォーラムにおいて策定されました。

大和川フォーラムの第一部 流域交流会（10:10～12:30）では、各機関から大和川再生の取り組み成果報告を行いました。その後、本計画の素案を示し、流域住民・NPO・学識経験者等の参加者と意見交換を行い、それをとりまとめて「Cプロジェクト計画 2006（案）」として第二部に報告しました。

第二部 大和川サミット（13:30～15:35）では、国土交通大臣・奈良県知事・大阪府副知事・流域 38 市町村長が一堂に会し、意見交換が行われました。本計画の案について報告があり、沿川市町村長から再生への提言、国土交通大臣・奈良県知事・大阪府副知事・市町村長による意見交換が行われました。これらの提案を盛り込み、本計画の最終案として諮り、大勢の参加者の拍手により、「Cプロジェクト計画 2006」が採択されました。

本計画は、大和川再生を加速させていくための教科書として位置づけるものであり、広く様々な方々から計画実現に向けたアイデアをいただくために、策定の経緯も含めた形でとりまとめました。

はじめに

大和川流域の歴史は古く、流域に存在する多くの遺跡、古墳が示すように、人々は太古より大和川とともに暮らしており、飛鳥京、藤原京と政治の中心がおかれ、710年には平城京に都がおかれるなど、大和川は我が国の歴史を見つめてきた川です。また、万葉の昔から多くの歌人らに愛されてきた川であり、日本文化を育んだ母なる川でもあります。

大和川水系は、水害常襲地帯である奈良盆地に 156 の急流河川が合流し、日本有数の大規模な地すべり地を有する亀の瀬の渓谷を経て、河内平野では 302 年前に付替えられた 14.3km の天井川となって大阪湾へと注いでいます。その流域は、奈良、大阪の 38 市町村におよび、流域内人口は約 215 万人を数えます。一方、はん濫区域内人口は約 400 万人にのぼり、大和川と淀川に挟まれた旧大和川流域を中心としたはん濫区域には近畿圏の政治経済の中核機能を抱えています。この地域は、地震などにより首都圏が被害を受けた際に首都機能の代替を果たしうる地域であるとともに、国内のみならず東アジア経済に影響を与える重要地域です。

昭和 57 年 8 月などの大水害にしばしば見舞われてきました。また、高度成長期には大和川の水質は劣悪な状況を呈していましたが、流域の関係機関や流域住民の努力により、近年は環境基準レベルを下回り、天然アユの遡上が確認されるほどまで改善しています。一方、大和川の年間降水量は 1300mm と全国平均（1700mm）に比べて少なく、河川の流量が少ないため他水系の水資源に依存しています。

このように、治水上も厳しい条件におかれ、水質等の課題も多く、さらに、水資源にも恵まれないという全国の河川にない特徴を有する河川であり、このような課題を克服し、さらに日本古来の歴史的・文化的背景を有する大和川を再生することは、日本全国の河川の目標となりうるものであるという認識のもとに、全国に先駆けて、ここに大和川再生を加速させるための C プロジェクト計画 2006 を策定します。

この C プロジェクト計画 2006 の速やかな実現に向け、様々なアイデアなどを広くいただくため、ホームページ等で公開していくこととしています。

1. C プロジェクト計画策定の背景

平成 16 年（2004 年）大和川下流部の付替え 300 年を迎えたその年に本川の 8 地点の BOD 平均値が環境基準レベルを下回ったこと等を契機に、大和川再生に向けた気運が一気に高まりを見せました。平成 17 年（2005 年）3 月には、流域の代表市町村長、奈良県知事、大阪府知事、国土交通大臣が一堂に会した、「大和川水環境サミット」が開催され、流域住民と行政とのパートナーシップによる大和川再生のキックオフとなる、「大和川水環境サミット宣言」が採択されました。

サミット宣言では、平成 22 年（2010 年）の平城遷都 1300 年を目標として、生命・財産を守る安全で安心な大和川、次世代に伝える美しい大和川、地域を育む豊かな大和川、の 3 つの取り組みを関係市町村、奈良県、大阪府、国土交通省が一致協力して進めることとし、これを実現するために、水質の悪い大和川というイメージを変えていく（Change）、流域全体が連携する（Collaborate）、力を集中する（Concentrate）・・・の「C プロジェクト計画」を立案することとなりました。

2. これまでの取り組み

これまで、大和川流域では流域住民と行政とのパートナーシップにより、大和川の再生について、流域住民、市町村、府県、国が一致協力し、各々の役割分担のもとに連携を図りつつ様々な取り組みを行ってきました。そのうちの主な取り組みを水環境サミット宣言の3つの取り組みに分類し、以下に記載します。なお、水環境に関する事項については、大和川水環境協議会でCプロジェクト計画2006（水環境編）を策定しました。

生命・財産を守る安全で安心な大和川

- ・ 国土交通省管理区間において、大和川流域委員会を設置し、流域の特徴等の共通認識を構築し、課題の抽出・整理を実施
- ・ 奈良県、大阪府管理区間において河川整備計画を策定
- ・ 亀の瀬地すべり対策工事を引き続き実施
- ・ 人口増加、市街化が著しい奈良盆地における総合治水対策を国、奈良県、関係市町村連携のもと、引き続き実施
- ・ 大阪府域における超過洪水対策として、高規格堤防整備事業を引き続き実施
- ・ 大和川沿川整備協議会を組織し、高規格堤防と都市整備等まちづくりとの一体整備を促進
- ・ 大和川及び支川において流下能力向上等のための対策を引き続き実施
- ・ 流域の土砂災害対策として、砂防えん堤などの整備を引き続き実施
- ・ 防災・減災フォーラムの開催、浸水想定区域の公表、避難判断水位（特別警戒水位）の設定、分かりやすい河川防災情報の提供、携帯サイトの開設等のソフト対策を実施
- ・ 土砂災害警戒区域の指定
- ・ 土砂災害防止に対する理解と関心を深め、防災知識の普及啓発を実施
- ・ 水防事務組合等と連携し、水防訓練等を実施
- ・ 大和川総合治水対策協議会において、大和川流域浸水実績図の公表や総合治水イベント実施等により普及啓発を実施
- ・ 大和川圏域総合流域防災協議会において、大和川圏域河川整備状況図を公表
- ・ 事業場等の排水規制の実施

次世代に伝える美しい大和川

- ・ 大和川水質汚濁防止協議会と大和川清流ルネッサンス協議会を発展的に統合し、大和川水環境協議会を設立
- ・ 大和川環境整備連絡協議会の活動の輪を流域全体に拡大
- ・ 河川浄化施設整備を実施
- ・ 下水道整備及び合併処理浄化槽設置を実施
- ・ 下水処理場における高度処理を実施
- ・ 大和川クリーンキャンペーン、大和川〔絵・ポスター・作文・写真〕コンクール、大和川博士講座、大和川源流体験、水環境巡回パネル展を実施
- ・ 地域が育む川づくり事業などによる、地域住民、NPO等の河川愛護活動への支援
- ・ 生活排水対策社会実験を民間と協働して実施
- ・ 川の通信簿、水生生物調査を市民と協働で実施
- ・ アクリルタワシ作成講座など生活排水対策「万葉の清流ルネッサンスキャンペーン」を実施

- ・ 大和川・石川クリーン作戦などの河川清掃を流域住民と協働で実施
- ・ 石川、西除川でアドトリバープログラムによる河川美化活動の実施
- ・ 水質汚濁に関する調査・研究を継続実施
- ・ ごみマップを作成し、ごみの投棄状況や流域住民の河川敷清掃の状況を把握

地域を育む豊かな大和川

- ・ 大和川水辺まつりを開催し、水辺の楽校の実験的取り組みを実施
- ・ タイムカプセル、子ども座談会など未来へつなげる取り組みを実施
- ・ 大和川博士講座、出前講座など環境教育の実施
- ・ 大和川ネットワーク（仮称）交流会を開催
- ・ 大和川流域の情報を発信するラジオ番組「人・ゆめ・未来 大和川」の放送を開始
- ・ 南河内水辺のつどいを開催

3. 大和川の再生を加速するプロジェクト

今後、大和川流域では水環境サミット宣言の3つの取り組みに対して、流域住民、市町村、府県、国が一致協力して取り組みを推進し、平成22年の平城遷都1300年を目指して大和川の再生を加速させます。なお、水環境に関する事項については、大和川水環境協議会で策定されたCプロジェクト計画2006（水環境編）を推進します。また、これらの取り組みについては、毎年、成果の取りまとめと計画の見直しを行います。

さらに、力を集中してこれらの取り組みを重点的に実施するため、「大和川再生推進月間」を制定するとともに、「大和川の日」を制定することとし、Cプロジェクト計画2006の年次報告と見直しを行うとともに、大和川に関する調査研究等の発表会、一斉清掃、生活排水対策に係る社会実験等普及啓発を実施していきます。

まずは、2007年にモデル的に9月を大和川再生推進月間として、Cプロジェクト計画2006の年次報告などの大和川再生の取り組みを実施することとします。

生命・財産を守る安全で安心な大和川

多くの人口や資産、近畿圏の政治経済の中核機能が集積し、首都機能の代替を果たしうるこの地域において、人々の生命・財産・暮らしを守る安全・安心な大和川を目指し、流域の特性を踏まえて上下流のバランスをとり、関係機関が連携して治水対策等を進めます。

また、子どもたちが水しぶきをあげていきいきと遊べるような安全な水辺空間の創出を目指し、流域住民と行政とのパートナーシップにより水環境の再生を図ります。

（計画づくり）

- ・ 流域の特性を踏まえ、河川整備基本方針、河川整備計画の早期策定
- ・ 減災型社会の構築に向けたビジョンの策定

（ハード整備）

- ・ 奈良盆地における総合治水対策の着実な実施
- ・ 亀の瀬地すべり対策の早期完成
- ・ 河口部の堆積土砂対策等本川の流下能力向上等
- ・ 下流部の流下能力の向上に対応した、亀の瀬狭窄部の流下能力の向上に着手
- ・ 支川の改修工事を継続して推進
- ・ 高規格堤防の整備促進

- ・ 流域の土砂災害対策を継続して推進
(ソフト対策)
- ・ 直轄管理区間における堤防マップ等の作成
- ・ 曾我川、佐保川(以上国土交通省管理区間)、大和川、寺川、高取川(以上奈良県管理区間)における浸水想定区域の公表
- ・ 洪水ハザードマップ作成、はん濫シミュレーションの構築等の住民に分かりやすい防災情報を提供する仕組みの構築
- ・ 府県・流域市町村との情報共有のための光ファイバー網の構築等による情報連絡体制の高度化
- ・ 土砂災害警戒区域の指定を引き続き実施
- ・ 水質事故の未然防止、発生時の被害拡大防止のための情報提供、事業場等の指導、水質事故マップの作成

次世代に伝える美しい大和川

万葉の古来より多くの人々に愛された美しい大和川を再生させ、次世代に伝えていくことを目指し、流域の関係行政機関が緊密に連携することにより河川・下水道等の機能を最大限に活用し、また、流域住民と行政とのパートナーシップによる水環境再生や河川環境の保全等の取り組みを進めます。

(目標)

- ・ 早期の環境基準の達成
- ・ 更なる目標として、一昔前まで子どもたちが水しぶきをあげながらいきいきと遊び、泳いでいた大和川の水環境再生を目指す
- ・ 更なる目標として、いざというときに水道水源として利用できる大和川の復活を目指す
- ・ 多種多様な動植物が生息・生育できるような河川環境の保全等
- ・ 流域が一体となって、源流から海までゴミのない大和川を目指す
- ・ 安全で快適な親水空間の創出
- ・ 水量感のある豊かな環境の創出
- ・ 大和川らしい景観の創出

(取り組み)

- ・ 水環境再生のための大和川に優しいライフスタイル転換の推進
- ・ 河川サイン設置やガイドブック作成等、川を知ってもらい、川を好きになってもらうための河川や水環境に関する情報発信
- ・ 大和川クリーンキャンペーン、水辺の大発表会の継続、出前講座等水環境改善意識の普及啓発のための環境教育、万葉の清流ルネッサンスキャンペーンの推進
- ・ 流域住民と連携したクリーン作戦等の実施
- ・ 地域が育む川づくり事業などによる、地域住民、NPO等の河川愛護活動への支援
- ・ 下水道の普及(普及率81%)や接続の促進(接続率90%以上)、下水処理場の高度処理化、合流式下水道の改善等の促進
- ・ 合併処理浄化槽等の普及や機能の高度化、管理の適正化の促進、単独処理浄化槽や汲み取りの転換
- ・ 河川浄化施設の整備、河川の自浄作用の増進、多自然型川づくりの推進
- ・ 階段やスロープの整備等安全で快適な親水空間の創出
- ・ 大和川環境整備連絡協議会を流域全体に拡大

- ・ 流域全体の一斉清掃の実施やごみ減量計画の策定等の実施
- ・ 学識経験者等と協働・連携した水環境改善のための調査研究の推進
- ・ 歴史的、文化的背景等に配慮した、地域の財産としての大和川らしい河川景観の形成
- ・ 次世代に伝える美しい大和川の再生に向けた、大和川の歴史文化の探求

地域を育む豊かな大和川

一昔前まで子どもたちが水しぶきをあげながらいきいきと遊び、泳いでいた大和川、人々が集う大和川を目指して、大和川をより一層理解するための上下流・左右岸交流を進めるとともに、流域住民と行政とのパートナーシップをより一層充実させるネットワークづくり等を進めます。

(人づくりや仕組みづくり・ネットワーク)

- ・ 流域住民相互や流域住民と行政が情報を共有し議論出来る場、機会の提供
- ・ 流域住民と行政、学識経験者、企業等と行政機関が連携・協働・交流ができる仕組みづくりや拠点の確保
- ・ 川の指導者の育成や市民団体への支援等、人づくりの促進

(ソフト)

- ・ ラブリバー制度やアドプトリバープログラムの推進による適切な河川管理の実施
- ・ 流域住民相互のコミュニティーサイトの開設
- ・ 大和川水辺まつりの成果を流域全体へ展開
- ・ 大和川川遊びマップの作成・公表、リバーミュージアムや河川サインを核としたリバーツーリズムの推進
- ・ 川の通信簿、河川愛護モニターなど流域住民と連携・協働した川づくりの推進
- ・ 大和川景観百選の実施、懐かしい大和川の写真展等、大和川を再発見する取り組みを実施

(ハード整備)

- ・ 水辺の楽校や川の相談室など、大和川に関する情報を共有できる仕組みの整備
- ・ 大和川の治水、地すべり、歴史、文化、自然等を知る拠点の整備
- ・ 平成20年に遣隋使返礼1400年記念事業
- ・ 平成22年に平城遷都1300年記念事業

4. 大和川フォーラム

4.1 第一部 流域交流会

大和川フォーラムの第一部 流域交流会(10:10~12:30)では、各機関から大和川再生の取り組み成果報告を行いました。その後、「Cプロジェクト計画 2006(素案)」を示し、流域住民・NPO・学識経験者等の参加者と意見交換を行い、それをとりまとめて「Cプロジェクト計画 2006(案)」として第二部に報告しました。

意見交換は、「自然環境・ごみ」、「安全・安心」、「連携」、「次世代・教育」などの分野で様々な意見が出ました。

【主な発言要旨】

(自然環境・ごみ)

- ・ 大和川の下流域はアユの遡上には水量が少ないため砂の除去が必要。
- ・ 大和川に多様な生態系を呼び戻すためにはワンドが必要。
- ・ ごみ拾いなどの活動には、子どもを交えた取り組みが非常に大事（ごみを拾う子どもは、捨てる子どもにならない）。
- ・ ごみ問題は行政が主体的に取り組めば取り組むほど市民は無関心になる。ごみを預かる施設があれば不法投棄はなくなるのではないかと。
- ・ ごみ問題については、パトロールの強化なども重要。

(安全・安心)

- ・ 総合治水対策や水質の考え方からしても森林対策が重要。
- ・ 水田やため池の減少を考えると治水対策をどうしていくかは本当に重要。
- ・ 子どもたちを連れて川で遊んだら発疹が出た。そういう面での安全対策も重要。

(連携)

- ・ 協議会に、例えば環境基準をつくっている環境省なども参加してもらいたい。
- ・ 行政の行うイベントに市民の思いや願いを上手く合流させることが重要。イベントへの子どもや父母の参加方法を考えるというプロセスを大事にすべき。
- ・ 情報の発信地や学習資料の蓄積などの機能を持つ大和川資料館のようなものが必要。

(次世代・教育)

- ・ 子ども達だけではなく、大学生などにも参加してもらいたい必要がある。
- ・ 清掃を行うだけが教育ではない。ごみ問題について語り合い、大和川の歴史、文化、自然について、子ども達の要求を大事にしながら学んでいくことが本当の教育。
- ・ アクリルたわしをなぜ使うかということも含めて普及させていく必要がある。



▲第一部 流域交流会 大和川再生を加速させるための意見交換のとりまとめ

参加者からの意見交換の内容をとりまとめ、アドバイスとして「Cプロジェクト計画 2006 (素案)」に付け加えて、第二部 大和川サミットで「Cプロジェクト計画 2006 (案)」として報告しました。

第一部で参加者の皆様からいただいたアドバイス

アユなど環境にも配慮した土砂管理が重要。

ゴミ対策をしっかりと行うことが重要。(パトロールの強化など)

次世代につなげるためには、世代間の連携が必要。

森林対策を含めた総合治水対策の推進。

住民が情報に触れることのできる拠点について、みんなで考えることが必要。

環境教育を進める上では、住民の力と知恵を活用するなど住民を巻き込んだプロセスが重要。

教育素材の充実。

水に関わる関係機関との連携が必要。

住民主体の取り組みに、行政の支援が必要。

(例えば、アクリルたわしの推進など)

治水対策には、流域の対策なども必要。

などなど

第一部 流域交流会 大和川再生を加速させるために参加者からいただいたアドバイスのとりまとめ (第二部 大和川サミットへ報告)

4.2 第二部 大和川サミット

第二部 大和川サミット(13:30~15:35)では、北側一雄国土交通大臣・柿本善也奈良県知事・梶本徳彦大阪府副知事・流域 38 市町村長が一堂に会し、意見交換が行われました。本計画の案について報告があり、沿川市町村長から再生への提言、国土交通大臣・奈良県知事・大阪府副知事・市町村長による意見交換が行われました。

【主な発言要旨】

- ・ 生まれ育った大和川を皆様と一緒に本当に美しい川にしたい。昔の大和川を取り戻すのが私どもの責任。昔は大和川も水道水源。いざというときに水道水源になる川にしていきたい。
- ・ 大和川は地形的に災害をもたらす可能性が極めて高い。亀の瀬が一番の象徴だが、河川整備、安全・安心という点で課題のある川。治水面もしっかりと行う必要がある。
- ・ 水辺空間を大切にしまちづくりを行い、子どもたちがいきいきと水しぶきをあげて遊べる川にしていきたい。また、百万匹のアユが遡上し、ホタルが舞う大和川に再生させたい。そのためには高度処理、合流改善等の下水道整備を着実に進めることが重要。
- ・ 上流と下流の連携が重要。下流が亀の瀬や総合治水などの上流の苦勞を知り、上流がごみ問題など下流の苦勞を知る必要がある。また、住民が主体的に動いて下さることが重要。そのためには住民の方々の理解・協力が不可欠であり、資料館のような啓発の拠点を整備していきたい。
- ・ Cプロジェクト計画 2006 を毎年フォローアップしていくことが大切。
- ・ 平城京の時代は、治水、まちづくりなどに日本人の気概を示した時代。2010 年は、その気概を思い起こして 21 世紀の活気ある日本を見いだすとともに、治水、まちづくりなどについて共同意識を持つ機会にしたい。
- ・ 河川環境については、例えば、ホタルが舞う川づくりのような、生態系にも配慮した川づくりをしていきたい。
- ・ 川に親しめる雰囲気、県民を含めた協働の雰囲気を作ることが重要。
- ・ 平城遷都 1300 年記念事業で奈良時代～今日～未来というつながりを考えていきたい。
- ・ 国、府県、市町村といった行政の連携と、横断的な力を一つにした取り組みが重要。
- ・ 上下流相互が情報を共有し、理解し合いながらバランスのとれた治水対策の推進が必要。
- ・ わかりやすい河川情報の提供、土砂災害警戒情報の発表、市町村による洪水ハザードマップ作成などソフト対策も推進していくことが重要。
- ・ クリーン作戦やアドプトリバープログラムなど、流域住民との協働も重要。今後とも地域と行政が一体となって取り組んでいきたい。
- ・ 奈良市は大和川の最上流に位置し、佐保川、秋篠川の 2 つの主要河川がある。平城遷都において大和川水系の舟運が果たした役割は大きい。
- ・ 平城京時代からの歴史風土景観を受け継ぐ河川環境づくりが大切。2010 年に向けて、平城遷都と河川の関係を紹介していきたい。
- ・ 川には境界がないということを認識し、次世代へ伝えていく必要がある。
- ・ 国、県、市町村の幅広い連携と、「減災」の観点から、大和盆地に多いため池や自然地形を利用し、自然景観をいかした取り組みが必要。
- ・ 大和川の上流域であり、汚濁、家庭排水など大和川の水質改善に重い責任を感じる。

- ・ 橿原市では市民に直接水質改善を訴えているが、大和川再生には「行政」と「住民」の意識が一致しなければ実現しない。
- ・ 行政と市民が協力して清掃活動を継続してきた。継続性が重要。また、次世代を担う子どもたちに水環境の大切さ、きれいな川の素晴らしさを認識してもらうことも重要。
- ・ 奈良県の治水において、亀の瀬地区の河川狭窄部改修が重要。
- ・ 中甚兵衛による下流部の付替えが行われて300年、平成16年の記念事業を契機に市民からも一昔前に泳いだ大和川を取り戻したい思いが芽生えている。
- ・ 昔の大和川への想いをもって、地域住民とともに大和川を取り戻す活動や環境整備、流域下水道の整備に努め、下流から海へと美しい水を帰していきたい。
- ・ 水環境サミットや水辺まつりなど川を愛し、川とのかかわりを深めようとする取り組みの輪が急速に広がりを見せている。
- ・ 政令市移行に伴い一部河川の管理業務が大阪府から移譲されたが、今後も関係機関との密接な関係のもと、水害のない安心して暮らせるまちづくり、市民との協働で川の貴重な資源を生かしたまちづくりを積極的に進めていく。
- ・ 大和川の最上流に位置しており、水質問題に対して大変責任を感じる。
- ・ 川の整備そのものは行政が実施しなければならないが、住民の日常からの少しの心がけてごみ問題や水質は良くなる。日々の継続と積み重ねが重要。
- ・ 狭山池の改修工事で甦ったことが契機となり、狭山池を中心とした市民の活動が盛んになってきた。狭山池を媒体に市民間のコミュニティが醸成された。
- ・ 水辺環境を活用しながら活気のあるまちづくりに繋げていきたい。

これらの提案については、Cプロジェクト計画を進める上で留意する事項として盛り込み、最終案として諮り、「Cプロジェクト計画2006」が採択されました。

【Cプロジェクト計画2006の骨子】(第二部 大和川サミットで採択)

Cプロジェクト計画2006

大和川は、
治水・利水・環境の各分野で多くの課題を持つ川
悠久の歴史を持つ日本文化の母なる川

➡

日本全国の河川の
目標となる

平成22年の平城遷都1300年を目指し、大和川再生を加速させる。
毎年、計画のフォローアップを実施
力を集中して重点的に取り組む
「大和川再生推進月間」「大和川の日」制定
来年は、モデル的に9月を推進月間

[1/4]

大和川の再生を加速するプロジェクト

- ・流域の特性を踏まえて上下流のバランスをとり、関係機関が連携して治水対策等を推進
- ・関係機関が連携し、河川・下水道等の機能を最大限に活用することにより、早期の環境基準の達成
- ・本川下流部では、BODで夏期に3mg/L、盛夏に2mg/Lを目標に、
 - ・いざというときの水道水源となる大和川
 - ・水遊びができるような大和川
 - ・一昔前まで泳いでいた大和川 の復活を目指す

[2/4]

大和川の再生を加速するプロジェクト

- ・大和川をより一層理解するための上下流・左右岸交流の推進
- ・流域住民と行政とのパートナーシップをより一層充実させるネットワークづくり等の推進
- ・流域住民と行政、学識経験者、企業等と行政機関が連携・協働・交流できる仕組みづくりや拠点の確保

等

[3/4]

大和川の再生を加速させるために

次の事項に留意してCプロジェクト計画2006を進める。

- ・大和川は全国の河川の目標であること
- ・歴史・文化を活かした取り組みの推進
- ・ホタルが舞う川づくりなど自然環境への配慮
- ・大和川を知るミュージアムなど拠点の整備
- ・上下流など広域的な協働、民間との連携
- ・世代間の連携、次世代への伝承
- ・2010年には全川で水道水源として利用可能な水質
- ・アユが100万匹のぼる川
- ・全ての下水処理場で高度処理を実施

等

[4/4]

大和川フォーラム、大和川サミット関係機関

国土交通省・奈良県・大阪府

奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・御所市・生駒市・香芝市・
葛城市・宇陀市・平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・高取町・
明日香村・上牧町・王寺町・広陵町・河合町・大淀町

大阪市・堺市・八尾市・富田林市・河内長野市・松原市・柏原市・羽曳野市・藤井寺市・
大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村

(平成18年9月10日現在)